

公表

令和7年度 事業所における自己評価結果

事業所名	沖縄市子ども発達支援センター		公表日 令和8年5月25日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	0	参加人数や活動内容によって、部屋を使い分けている。 利用定員が多い時は、少人数に分けて活動を進めていく等の工夫をしている。 登園人数によって、部屋を調整している。 療育のしやすい環境作り。 人数に対して、広さを考慮し変更している。 人数が多い時は、集団を分けている。 広いホールがあり、集いの会の場所、机上活動の場所、水あそび場所を工夫しながら確保出来ている。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	1	常にサポート職員を配置し、手厚く療育を行う環境である。 少人数でのクラス活動の中でも、個別対応が必要な子は職員をつけたり、ミーティングで共有している。 人数が足りない時は、活動内容や場所を検討している。 専門職が自ら積極的にサポートする気持ちや仕組みが必要。 他クラス間での補助は必要。 活動によっては、安全面を考慮しサポート職員を増やした。 活動によって職員の配置を事前に決めている。 リーダーとサブ、必要ならサポートの職員も配置している。	療育前のミーティングで、活動における職員配置や役割を共有し、安全・安心な療育の提供に努めていく。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	3	トイレ数や照明など改善があると過ごしやすと思う 大人用トイレの数が少ない。トイレが暗い。 視覚支援。 施設内も古くなってきているが、展示物の色を明るくしたり、仕切りの衝立を明るい色で作成してわかりやすくした。 エレベーターのボタンを子供が押ししてしまう事があるので、改善は必要。 2Fのこども用トイレが少ない。	トイレの照明を暖色から明るめの白色に変え、薄暗さの解消を図ると共に、大人用として使用頻度の高かったトイレをこども用にも使用できるように掲示案内をした。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	2	遊具のセッティングやマットを使用するなど工夫をしている。 施設自体は老朽化や劣化が進んでいる箇所も見られるが、子ども達、保護者の安全に危険がある場所があれば、すぐに職員や所長と共有するようにし、必要があれば修繕をお願いしている。 古いが、清潔を心がけている。鳩のフン対策。 衛生状態の確認。 壁の業者による清掃や除湿機を使用した事で、心地よい空間になった。 底冷えが改善されると良い。 登園するには長い階段を登る必要があるが、長い目で見れば子ども達の体力作りになっている。また、必要な方にはエレベーター使用可である。 使用する時間をずらす移動するなど職員同士で相談して調整している。	引き続き、定期的な安全点検を実施し経年劣化による施設の不備等については、修繕を実施し、安心・安全な環境づくりに努めていきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	子どもの特性や状況に応じて、別室の保育室で環境を整えたり、必要に応じて個別対応している。 和室や衝立の利用。 どこの部屋にも行ける環境作り。 集団を嫌がる時は、子供達が好きな絵本コーナーや、空いている部屋を選択してもらい利用している。 クールダウンする場所など臨機応変に使っている。 クールダウンの部屋がある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	0	研修での振り返り。 園内研修。 活動前、終了後と打ち合わせ、振り返りを必ず行っている。 センターだよりにねらいを載せ、活動終了後の保護者との振り返り、職員間での振り返りを丁寧に行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	保護者向け事業所評価の結果を職員間で共有している。 アンケートに答えるよう、うながしている。 職員全体で共通理解をしている。 職員全員で書面を見ながら行っている。 職員全員で会議を持ち、改善点を話し合うことで業務改善につなげている。 また、好評価もしっかり受け止めモチベーションを上げている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	職務会や都度の相談を通して改善に繋がっている。 管理者等による個別面談の実施。 意見箱の設置をしている。意見箱。 所長や正職員が話しやすいので、適宜話している。 職務会での意見交換。 話し合いを設けて、職員全員で把握している。 朝のミーティングや活動終了後の振り返り、職務会を持ち意見を出し合っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	8	外部評価を行っていない。 わたしが把握してないだけかもしれません。	外部評価の実施に向けて検討していきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	定期的な研修の開催にて専門知識を深めている。 専門職は業務時間に本や資料を読む時間があるが、保育士は日々の業務でできない。 時々開催される研修はありがたいです。 年間で盛り込まれている。 多岐に渡る研修を所長をはじめ皆さんで考え、受けさせていただき資質向上に努めています。	
11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0	会議などを通して共通理解を図っている。 保護者へ伝える。 子どもの姿、季節に合わせてグループ毎で綿密に話し合いプログラムを作成しています。		

適切な支援の提供	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9	0	個別に聞き取りや会議にて計画書を作成している。 グループでしっかり共有している。 聞き取りや振り返りを丁寧にを行う。 保護者から丁寧に聞き取りを行ったり、保育園・児発も交えた支援者会議・モニタリングを行い、支援計画を立てている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0	会議時職員の参加が少ない時もあるので、なるべくみんなが参加し理解を深めることが出来ることよい。 色んな視点から行っている。 ケース会議を行い話し合っている。 情報を共有し、連携を大切にしている。 子どもの支援に関わる職員の日々の記録、また対話を元に作成している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	0	全体で共通理解を図れるところ。 ケース会議を通して共有している。 ケース会議は多職種(保育士、心理士、理学療法士、言語聴覚士)職員全体で行い、それに基づき支援を行っている。		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	2	日誌や個別記録が職員間で閲覧、記録ができるようになっている。 マニュアル等の準備不足。	引き続き、園内研修等の中で各種マニュアルの確認・見直し等を図りながら職員間での共有に努めています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0	全てを踏まえて計画を作成している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	0	グループによっては、話し合いの時間が持ちにくい。 毎月話し合いを行いプログラムを計画している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	子ども達の活動の様子を踏まえた振り返りを行いながら、遊びや活動の展開を行っていきよう工夫している。 子どもの姿に応じて、グループで相談し変えている。 工夫はしているが、偏ってしまうこともある為さらなる工夫が必要。 年間で通して計画し、サイクルを調整している。		
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	1	個別の活動はできないが、集団から外れた時に、個別対応している。 また、そもそも集団に入れない時は、部屋の外で個別で対応している。 個別で対応する職員を配置。 集団あそびや製作活動を組み合わせた活動を交互に行うなど工夫した。	引き続き、小集団のグループ活動をメインに進めながら、子どもの状況に合わせて個別対応を実施していきます。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	開始前ミーティングで共有し、療育の連携を図っている。 個別対応や安全面の対策が必要な時は、しっかりと伝えている。 朝の朝礼で確認。 個別対応が必要な子について、丁寧に伝達するようにしている。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	0	ふりかえりの時間を作っている。 毎日の振り返り。		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0	記録する子どもの人数が多い時には、少しでも関わった職員が、数個でも書いてもらえると助かる。 5領域を意識した記録のとりかた。 抜けがないようにチェックしている。		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0	療育にかぶらない時間帯。 保護者との共通理解の場を意識して設けている。		
	関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0	会議への参加。 児発管と担当保育士が参加。	
		25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	1	直接聞けない時は、保護者を介して情報をもらっている。 なかなか連携がとれない。	
		26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	0	保護者の同意を得ながら行っている。 計画巡回への同行。	
		27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	0	小学校には見に行けないので、保護者を介して行う。 小学校との日頃からの顔合わせは必要。	
		28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。	7	2	担当者会議やモニタリング、必要な時はその都度、子どもの様子を見に伺いながら連携を図るようにしている。 また、近隣保育所への施設開放を行った。 定期的なモニタリング。 中核的機能の力を発揮できていない。 沖縄県親子通園連絡協議会に参加し、情報共有や研修で学び合っている。 2ヶ月に一回沖縄通園に参加。	地域の事業所連絡会等に参加し、横の繋がりを構築しながら、地域全体の質の向上に繋がる取組について検討していく。
		29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	9	0	音楽療法はすごく良いと思います。 自己研鑽を行う。	
30		(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	5	4	会議への継続的な参加。 所長や心理士が参加。	・会議参加担当者から情報共有をしっかりと行う	
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。						
32	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	4	5	地域とのつながり。 地域の保育園の子がホールに遊びに来たり、ハロウィンでセンターを訪ねたり、保育所に隣接している公園で一緒になった時は交流がある。	・地域の保育所等や施設との交流をもつ機会を検討していく。		
33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	あらかじめ、話したい事を伝えて時間を作ってもらっている。 日々の振り返りも行う。 常に子供の状況や、子供の姿と一緒に確認し合っている。			

保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	0	ペアレントタイムや親勉強会の定期的な開催。 保護者へも事前周知し、参加しやすい環境作り。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0	契約時に所長が説明し、途中は確認しながら保育士も説明している。 契約時に行う。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	しっかり聞き取りを行なっている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9	0	丁寧な説明。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	療育後や電話など、必要に応じて個別で話し合う。 担当だけでは難しい場合は専門職経も引き継ぐ。 必ず問いかけ、相談を受けるようにしている。 相談があった時は丁寧に聞き取りを行い、必要な時は所長や心理士から助言をいただきフィードバックしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	0	ペアレントタイムで保護者同士、情報共有する場を設けている。 行事の際は、保護者だけでなく、きょうだい児の参加も案内している。 ペアレントタイムや、夏まつり、親子フェスティバルなど。 お祭りなどへの参加呼びかけ。 夏祭りや親子ふれあいフェスを開催し、兄弟児支援を行っている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	即答できない時は、上司や周りに相談している。 職員全体で把握できる体制。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9	0	適宜更新。 継続的な配信は今後の課題。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0	パソコンの画面や、書類を出しっぱなしにしない。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0	状況に応じて、丁寧に伝える。	
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	7	夏まつりの環境に、一部地域の保育園児を招待し遊びの場の提供を行っているが、今後、交流に関する拡充を検討中。 普段の活動と両立した運営。 地域住民への参加の大切さと同等に子どもたち、家族のプライバシーの保護も課題。	・地域の方に参加してもらえるような行事の検討を行う。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0	マニュアルは、毎年確認。 毎月、職員、親子ともに避難訓練を行なっている。職員全員で研修を通して理解し、マニュアル対応に備えている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0	毎月行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9	0	掲示へ全体へも周知。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	0	調理とも密に話し合う。 紙面に表示し、視覚的に把握、確認できるように貼り出している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0	療育前の安全点検を毎回行う。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	職員全体で周知。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	1	毎年必ず確認している。	引き続き、園内研修等の中で各種マニュアルの確認・見直し等を図りながら職員間での共有に努めていきます。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9	0	毎年必ず確認している。	